

4.各種外装仕上材の適否

○:適している △:使用に際して注意が必要 ×:不適

種類	仕上塗材仕上げ							張り仕上げ				
	薄付け仕上塗材		複層仕上塗材			厚付け仕上塗材	モルタル塗り仕上げ	成形板仕上げ	タイル張り仕上げ	石張り仕上げ		
	外装薄塗材E (樹脂リシン)	可とう形外装薄塗材E (弾性リシン)	複層塗材E (アクリルタイル)	複層塗材RS、RE (エポキシ系タイル)	防水形複層塗材E (弾性タイル)	複層塗材CE (セメント系吹付けタイル)	外装厚塗材E (樹脂スタッコ)					
工法の概要	●エマルジョン系の合成樹脂を結合材とした砂壁状の吹付材。 ●廉価で施工性がよく、実績が多い。	●樹脂リシンの塗膜自体に柔軟性を付与しひび割れ追従性を向上させた吹付材。 ●接着性、耐候性がよい。	●一般に下塗材、主材、仕上材等で構成されるいろいろなパターンに仕上げることができる。 ●主材が合成樹脂を結合材としており、防水性・耐汚染性・耐ひび割れ性に富みシボレックスに最適。	●エポキシエマルジョンタイル(複層塗材RE)、エポキシタイル(複層塗材RS)の2種類がある。 ●重量感、耐候性に優れる。	●いずれもゴム弾性を有し、ひび割れ追従性、防水性、耐久性に優れる。	●防水性・耐汚染性・耐ひび割れ性に優れている。	●厚付け塗膜による独特のデザイン性を有する。 ●従来のセメント系スタッコに比べ耐ひび割れ性がよくエフロの恐れも少ない。	●ALCパネルの目地を消す目的で使用される。	●ホーロー鋼板、フッ素樹脂塗装鋼板等の金属板を胴縁を介して取り付けの工法。 ●断熱、美観に優れ耐候性に優れる。	●磁器質の規定の形状・寸法の大きさのタイルを張る工法。	●大理石、大型陶石等の成形板を張る工法。	
注意事項	●汚れが付着しやすい。 ●寒冷時(5℃以下)には施工を避ける。 ●下地処理としてフィラーを塗布する。	●下塗材、上吹材の組み合わせは同一メーカーの材料を用いる。 ●下地の不陸に注意する。	●下塗材、主材、仕上材各々の組み合わせは同一メーカーの材料を用いる。 ●寒冷時(5℃以下)には施工を避ける。	●下塗材、上吹材の組み合わせは同一メーカーの材料を用いる。 ●下地の不陸に注意する。	●透湿抵抗が高いため、寒冷地ではふくれ等を生じる恐れがある。	●下塗材、主材、仕上材各々の組み合わせは同一メーカーの材料を用いる。	●汚染防止のためにトップコートを使用する必要がある。	●ALCに比べてモルタルの強度、重量、乾燥収縮率が大きいため、ひび割れが生じやすい。	●風圧力(負圧)に応じてアンカーの種類・ピッチをチェックする必要がある。 ●施工がやや難しい。 ●重い材料は不向きである。	●P.238現場タイル張りのポイントを参照。	●重量があり基本的にシボレックスには不向きである。 ●やむを得ず採用する場合は、下地胴縁を設け、パネルに直接取り付けない工法を採用する。	
構成例												
外装への適否	縦壁 SDR構法 △ 横壁 SDR構法 △	縦壁 △ 横壁 △	縦壁 ○ 横壁 ○	縦壁 × 横壁 ×	縦壁 △ 横壁 △	縦壁 ○ 横壁 ○	縦壁 △ 横壁 △	縦壁 × 横壁 ×	縦壁 △ 横壁 △	縦壁 △ 横壁 △	縦壁 × 横壁 ×	
商品例	●アクリルダイヤ(株)ダイフレックス ●SMコート(メーコー) ●シントーラフコート(神東塗料) ●スズカリシン(スズカファイン) ●シボカケン(エスケー化研) ●レジリシン(大日本塗料)	●SMダンコート(メーコー) ●ラフトン弾性リシン(スズカファイン)	●ダイヤEPタイル(株)ダイフレックス ●トアクレイタイル(トウベ) ●ラフトンクレーター(スズカファイン) ●レナタイル(エスケー化研) ●ソフタイル(神東塗料) ●SMタイル(メーコー) ●DNTアクリルタイルベース(大日本塗料)		●SMダンタイル(メーコー) ●サータイト(ヤマウチ) ●レナフレンド(エスケー化研) ●シントーラバータイル(神東塗料) ●DNT弾性タイル#200(大日本塗料)		●ミラクマウント(エスケー化研)	●ウォールコートアクリルスタッコ(エービーシー商会)		●リバーウォール(JFE建材株) ●エスフロン(日鉄住金鋼板株)	[タイル] ●P.238現場タイル張りのポイントを参照。 [張り付けモルタル] ●Kタック(東海リテック株)	

仕上げと防水 外装仕上げ